

# 2040年を見据えて医療介護福祉を考える

## - 日本の医療・介護：当面する課題にどう対応するか -

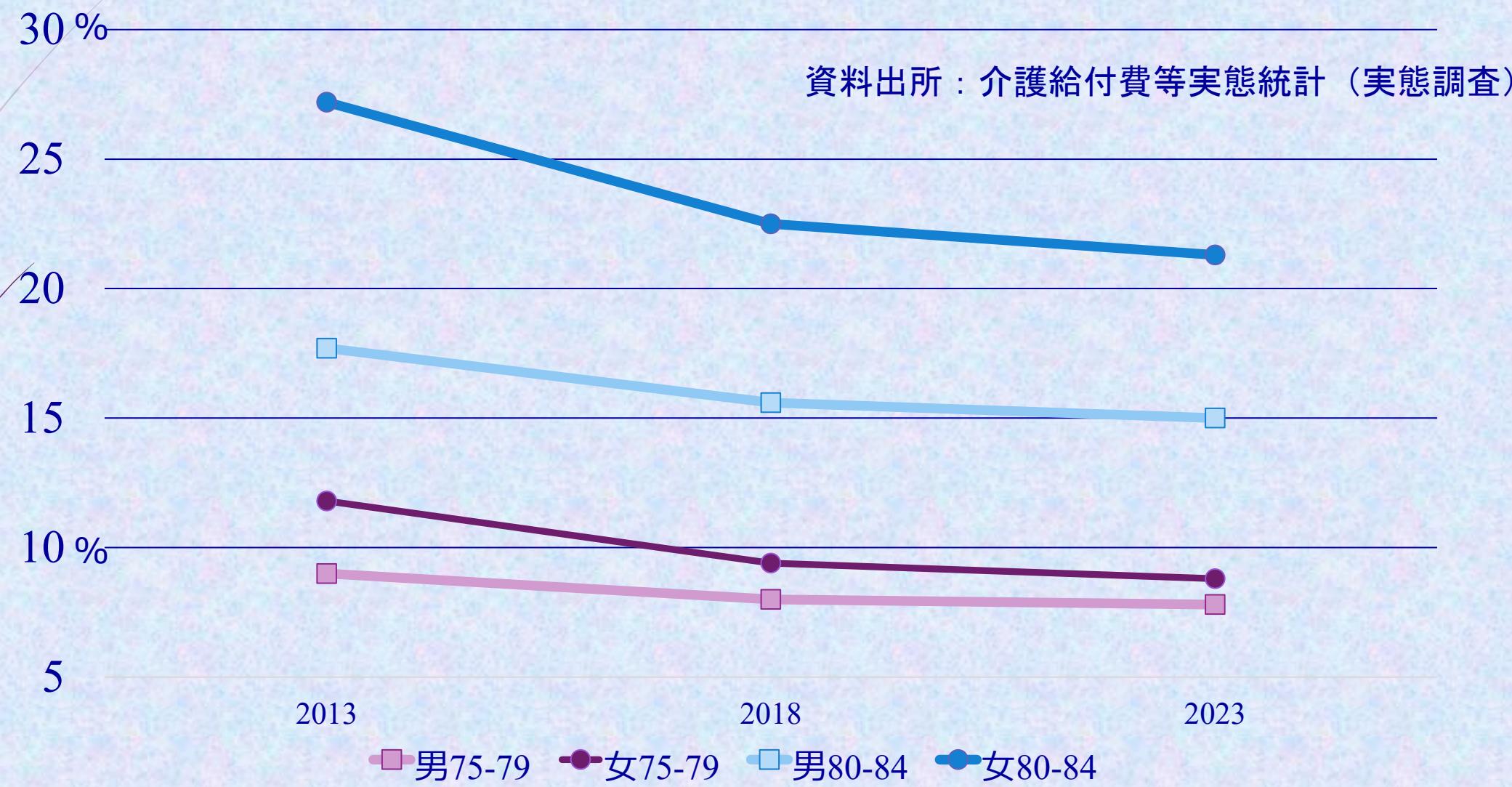
- 
- 2026年1月22日
  - 新春座談会
  - 埼玉県立大学・慶應義塾大学
  - 田中 滋

# これまでの成功がもたらした 課題

2

# 介護保険受給者割合推移

資料出所：介護給付費等実態統計（実態調査）



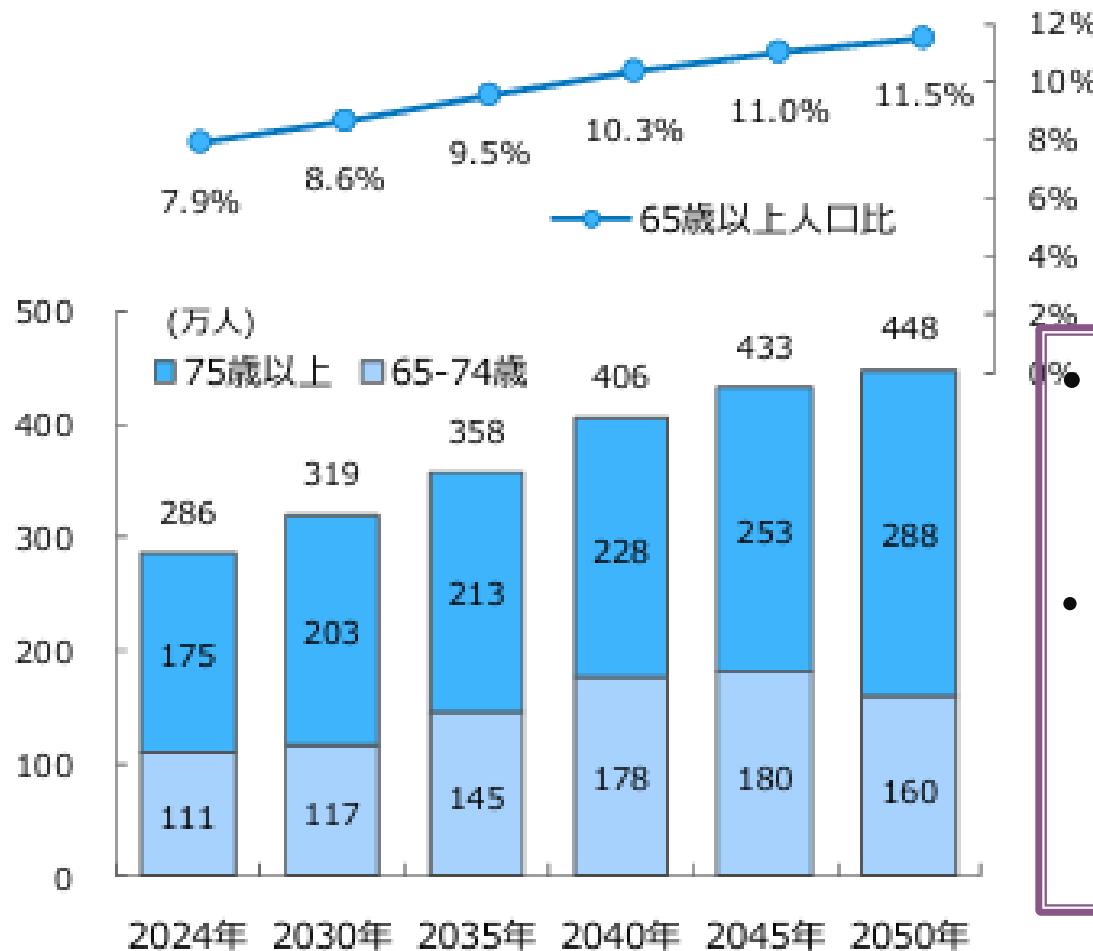
# 加速するニーズ変化 ①予防の意味

- 予防の違い：インフルエンザ、生活習慣病、要介護
- 非健康年数が変わらなければ要介護者は減らない
- むしろ要介護発生率の高い超高齢者が増える?
  - cf. 2023年の介護保険事業状況報告：要介護認定率
  - 65-69歳2.8%、75-79歳11.5%、80-84歳25.3%
  - 85-89歳47.2%、90歳以上72.9%
- 超高齢者が亡くなる前の時期に関する検討不足

# 三親等内の親族がない高齢者が増えていく

5

(図表 5) 三親等内の親族がない高齢者数の見通し



- 2040年には75歳以上1人ぐらし610万人
- 2025年上半期孤立死4.9万人、対前年同期比+3,700人うち死後8日目以降の発見は1.2万人（同+1,200人）  
<警察庁>

(資料)日本総合研究所『公的介護保険サービスにおける身元保証等に関する調査研究事業』(2020年)  
国立社会保障・人口問題研究所『日本の世帯数の将来推計』(2024年推計)をもとに日本総合研究所推計

# 加速するニーズ変化 ②単身社会と住まい

## ■ 単身者増に経済力格差と社会資本格差が加わると

- 生活保護 and/or 要介護
- 中高経済力：市場対応やUR
- 身寄り無し低中経済力：新たな福祉ニーズ

## ■ 住まい支援ニーズ

- 介護付き有料老人ホーム数は15年間で5倍、特養より多  
✓ 月額利用料30万円+
- 住み続け機能+つながる暮らし+看取り

# 加速するニーズ変化 ③単身社会と生活

## ■ 生活支援ニーズ：高頻度

- 食材調達と調理、外食や配食の利用、各種の買い物、洗濯、掃除(特に風呂とトイレ)、金銭管理、受診同行、庭や玄関先の手入れ など
- 家電製品等で代替できるかどうかは経済力による

## ■ 生活支援ニーズ：頻度は低いが重要

- 粗大ごみ、衣服の入れ替え、墓参り、ワクチン接種、家電製品買い替え など

以上を踏まえ...

2040年に向かって  
考慮すべき事柄

# 目標年を2040年に置いた 医療提供体制改革の方向性

- かかりつけ医機能の整備・充実
- 地域密着型中小病院：分散化
  - 高齢者救急および在宅医療（支援）・介護・生活期リハビリテーションを提供、もしくは積極的連携
- 高度急性期病院：計画的整備による集約化

# 医療・介護・福祉機能の組み合わせ

## ■ 各施設におけるサービス組み合わせパターン

- 地域密着型中小病院：入院医療 + 地域包括ケアシステム拠点
- 慢性期病院：入院医療 + 療養
- 特養：介護 + 生活 + 福祉
- 老健：リハビリテーション + 介護
- サービス付き有料老人ホーム：介護 + 生活 + 訪問医療
- 介護医療院：入院医療 + 介護 + 生活、そして看取り

# 目標年を2040年に置いた 地域包括ケアシステム構築 2nd Stage

- 医療介護の主たるターゲット年齢層：85歳以上
  - 急性期入院では目的を完結できない患者が大部分
- かつての植木鉢図に加えて重視されるべき要素は…
  - 認知症：施策・研究・ケア・バリアフリーのまちづくり
  - 防ぎえる急性期入院を減らす介護と在宅医療・外来医療
  - 尊厳ある看取り
- より重要：多世代共生社会